

「安心、安全を守るために」

北海道クリーン・システム株式会社 平 野 莉 子

私は、複合商業施設でフードコート内の清掃を担当しています。平日でも多くの利用客が訪れますが、休日の混雑した状況での作業はより一層神経を注ぎます。第三者傷害という面では、特に子供や高齢者、身体障害者の方などに万が一接触した場合、大きな事故につながる可能性が高い為、常に周囲の状況を確認しながら作業を行っています。

私の現在の業務内容は、椅子やテーブルの拭き掃除、床のモップ掛け、使用済みクロスの洗濯と様々ですが、その中でも特に接触事故の危険が伴う、大きなカートを用いたゴミ回収作業も行っています。ゴミ回収作業については、フードコート内でカートを押しながら、十力所に設置されたゴミ箱のゴミを回収しています。通路の幅は平均3m程と広いものの、休日で利用客が増加すると途端に狭くなることから、接触事故の危険性が高まります。カートに積載するゴミの高さは目線より下までとし、量が多い時は数回に分けて運びます。安全作業を意識しながら作業を行っていた中で、ヒヤリとする事象が起きました。

休日の混雑した日にカートを押しながらフードコート内を移動していた時に、子供がこちらに気が付かず後ろ向きで走って来たのです。咄嗟に横に避けようとしても、他の利用客がいた為、身動きが取れない状態でした。

母親が寸前で気付き、子供に声を掛けて制止した為、幸い接触には至りませんでした。このように混雑した状況でも、特に商業施設のような場所では、人は他に意識が向く事が多く周囲への注意力が散漫になる事がわかります。そこで事故に発展させない為には、ヒヤリ・ハット体験から学び、対策をとる事が大変重要だと考えました。

この体験も踏まえ、不特定多数の人が行き交う場所で、どのようにすれば接触のリスクを軽減し危険を回避できるのかを考察し試行しました。

道で人と対向した時に、お互い同じ方向に避けようとしてなかなか前に進めない状況を連続回避本能といい、これは人間の本能による反射行動だそうです。この現象の対処方法は、一旦立ち止まり、相手が避けて行くのを待つ事だそうです。しかし混雑した場面では、背後から来た人が、こちらが止まっている事に気が付かずに接触しそうになる事もあるのです。特にスマートフォンを見ながらの前方不注意はよくあります。その為、第一の対処法として移動する際に「カートが通ります」と声掛けを積極的に行いました。声を掛けることでコミュニケーションを図りながら、接触の危険を回避する事が出来ると考えたからです。しかし、混雑時のフードコートは大変騒々しく、声をかけてもこちらの存在にすぐに気が付いてもらえないという難点も見つかりました。カートを押していると身振り手振りで誘導する事も困難です。

そこで仲間と話し合い、さらなる対策として、オーナー様のご協力の元、最も混雑する通路付近の椅子とテーブルの配置替えを行い、空きスペースを確保しました。これにより子供が飛び出して来たとしても避ける事が可能になりました。対策を取った事で接触の危険を回避し、利用客がより安心して食事を楽しむ空間を提供する事が出来ました。

今回の体験もそうですが、日頃からヒヤリとする場面やハットする瞬間に「事故にならずに済んでよかった」と終わらせてしまうのではなく、ヒヤリとしたことを仲間と共有しながら、常に事故の要因を追求し、対策を考える事が重要だと感じました。一つ一つ事故の芽を摘む事こそが、大きな事故を起こさない為の第一歩なのだと考えます。

最後に、私は清掃という仕事は、その場の空間と人を明るくする事が出来る素晴らしい職種だと考えます。今後も安心で安全な、事故のない職場を目指して、日々の業務に勤しんで参ります。

「なぜ労働災害は発生するのか。その原因と対策」

北海道クリーン・システム株式会社 高橋 正 幸

労働災害がなぜ起こるのか、ふと考える事があります。

ハード・ソフトウェアとも昔より遥かに優れた物が多くなり、教育・指導も以前より徹底されているはずなのですが、なぜか労働災害は発生してしまいます。

発生する原因として思いつく事がいくつかありますが、自分の中で大きなウェイトを占めているものが2つあります。

その1つは「業務への慣れ」です。

初めは何をするにも新鮮で仕事を覚える楽しさがあり、途中で大きな壁が立ちはだかり苦勞をしたりもします。

そのような毎日を過ごして人は成長し、培ってきた経験や知識を活かして業務をこなす幅広い対応ができるようになります。

しかし人は同じルーティンを繰り返していくと必ず「慣れ」が生じてしまいます。

この「慣れ」というものには「油断」や「過信」・「軽視」・「迂闊」と様々な事が上げられます。「いつも通りだから大丈夫」

「何も変わった事がないから安心」

「誰も見ていないからまあいいか」

と、いつも通りの事をせず何かを省略して業務進行したその瞬間に、重大事故が発生してしまいます。

私が考える対策としましては、日々のルーティンに変化をつける事です。例えば、いつもの業務内容に毎回安全目標を本人が設定して業務に取り組み、それに対して管理者が確認や評価をする方法を取ると、本人はある程度の緊張感を持ちながら、自ら設定した安全目標を意識して業務に取り組む事ができると思うからです。

2つめは「メンタルヘルスの不調」です。

ニュースでも報道されるようにパワーハラスメントの話題は今日でも耳にします。

過重労働や劣悪な職場環境等も、ストレスを抱える大きな原因となります。

私は過去の職場で部下が悩んでいる姿に気が付きましたが、結局解決できないまま職場から去ってしまう結果になった事案がありました。

メンタルヘルスに問題を抱えた人間は、その状態で業務を遂行すると効率的に仕事ができなくなってしまう、生産性も低下します。その状態で業務を続けてしまうと、重大事故に繋がる可能性が非常に高くなります。

その問題を抱えた従業員が退職や休職になってしまうと、他の従業員に負担がかかり、その結果が過重労働に繋がってしまい、更には他の従業員もメンタルヘルスに問題を発生、と悪い事だけがループしてしまい、ひいては職場の活気や業績悪化という結果にまで繋がる恐れがあると考えられます。

私が過去に経験した事を糧にし、解決策を模索した結果、上司や同僚がいつもと違う本人だという事に逸早く気付いてあげる事だと痛感しています。

普段の会話がなくなった・ミスが目立つ・服装や髪型の乱れ・遅刻が増える・無断欠勤が増えた等、様々なサインが表れる事が想定されるので、周りがそこに気付いてあげられる事がとても重要だと思っております。

もし、気付いたのであれば積極的に傾聴してあげて、必要に応じて専門家への受診や相談を促す事も大切だと思います。

普段から互いを尊重し、傾聴・受容・共感というコミュニケーションの基本姿勢を取っていく事も防止策としての重要なポイントです。

社会情勢が厳しいから会社も厳しいでは悪循環にしかありません。ゆとりや思いやりのある職場環境作りも労働災害防止策の1つになる事でしょう。

「労働災害防止へ、プラスワン！」

株式会社ベルックス 伊 藤 慎

入社して早5カ月が経過、多少の緊張もありますが、日々充実した思いで業務に励んでいます。私たちは、毎日、定められた順番や方法等に従いながら、細心の注意を払って仕事を行っています。しかし、とするとそうした繰り返しから“慣れ”が生じ、それが仕事を見る目や言動の甘さに繋がってしまうことはないでしょうか。

こうしたことは、いつでもどんな仕事でも起こり得ることで、私自身も時にハッとさせられることがあります。そうした日々の業務の中で、私が大切にしていることは『プラスワン』です。このことが、自分の言動を常に意識し、会社に対するお客様の信用・信頼に繋がっていくと思っています。

私が忘れず実行しているプラスワンは「声出し」です。一つ目は、朝の時点で自ら声を出して身だしなみを確認すること。服装や髪は整っているか、顔の表情は（暗くないか）などを鏡で確認し、気持ちを引き締めます。

靴についても、安全かどうかを確かめます。

二つ目は「挨拶」です。職場内では勿論ですが、毎日の業務を通して顔を合わせる取引先の方々への「おはようございます」「お疲れ様です」等の声掛けも大切だと思います。相手に対し良い印象を与えますし、何よりも人として大切なことです。“おらが会社”への愛情が自ずと相応しい行動になって表れ、穏やかな気持ちで仕事に向かうことが出来ます。その一つが挨拶ではないでしょうか。

私たちは、“絶対に事故を起こすまい”と思いつながりながら日々業務と向き合っています。しかしそれでも起きるのが事故、ヒヤリハット体験もよく耳にします。私が事故防止で大事にしていることは「指差確認」で、これがプラスワンの三つ目です。例えば自分が仕事で使用する用具や機械・設備等の始業前点検では、必ず声を出し指を差して安全を確認します。無事に業務が

終了した時点でも、同様に一声出して最終確認。安全に業務を終えたという安心感が、明日の仕事への励みにもなっていきます。

“お客様の為に”と考え業務に向かう姿勢が会社の信用・信頼に繋がり、更には自分自身の自信と誇りになる一改めて、「プラスワンを大切に」と肝に銘じています。

私たちの業務では、作業を一人で行う場合と複数人で行う場合があります。何人かでチームを組んで行う場合には、作業の工程で声を掛け合うことがとても大事なポイントになります。共同作業では、一人の小さなミスが大きな事故に繋がってしまうことも少なくありません。声を出し合うことでそれを未然に防ぎ、チームにも連帯感が生まれます。

声を出し合うことは、チームとしての力量アップにも繋がります。それが、お客様や取引先からの信頼を得る大きな力になります。私たちの努力が会社の業績アップに少しでも貢献出来れば、とても嬉しいことです。

私たちは、何よりも仕事のプロであることを自覚し日々の業務に邁進しなければいけないと思っています。正確で丁寧な作業を、迅速かつ安全に行うことが私たちの使命でもあります。その為にも、これからもプラスワンを大切に常に清新な気持ちで業務を遂行したいと思っています。

また、色々な機会を通して上司や同僚などとのコミュニケーションを図ることも大事だと思います。定期的なミーティング等は勿論ですが、上司との面談やちょっとした雑談の中から、業務改善に繋がる話題が出てくるかも知れません。

こうした取組を積極的に交流し合うことで社内の輪が更に広がっていきければいいなと思います。私自身も、“プラスツー・スリー”を意識しながら、与えられた業務に精一杯努力していきたいと思っています。

「ヒヤリ・ハットから繋がる事故防止」

北海道クリーン・システム株式会社 西水流 準 二

ヒヤリ・ハットとは、幸い重大な災害や事故は起こらなかったが、災害や事故に繋がるヒヤリとした、ハットとした、危ないと感じた事象のことである。

重大な災害の発生比率を導いたハインリッヒの法則では一件の重大事故、災害の裏に29件の軽微な事故があり、またその裏に300件のヒヤリ・ハットがあるという。

自分は現在、JRの駅に隣接した商業施設において施設の解施設、巡回、災害対応に従事しており職場では所属の各職員から月に一度ヒヤリ・ハットの事象が提出されている。

自分が提出したヒヤリ・ハットの具体的な例を挙げると、深夜の巡回中に段差につまずき転倒しそうになった件で、これは転倒時に受傷、周囲の物品の破損といった業務災害となるリスクがある。冬期に帰宅途中にバスから降りた際に凍った路面に足を滑らせた件でこれは転倒で受傷して通勤災害になるリスクがある。他には、閉館作業中のシャッター閉鎖時に通行人が急いで降下中のシャッターの下を通ろうとしたため、シャッターを停止させた件で、これは通行人が降下中のシャッターにぶつかり受傷することによる第三者傷害及び損害賠償、シャッターに挟まれ死傷することで、刑事事件となるリスクがある。これらの事象に管理者が対策、改善策を提言することで自分だけではなく周囲の職員にも注意喚起を実施し事故防止を図るものとしている。

自分の職場では幸い重大事故が発生していないが、同じ会社の別の職場では転倒や転落による受傷、物品の破損などの事故が発生している。事故を起こすと本人が辛い思いをすることはもちろんのこと、同僚にも負担をかけ契約先の信

用も失ってしまう事に繋がる。

どこの職場でもヒヤリ・ハットは発生しており、事故防止の安全喚起も実施されているが事故は発生してしまう。原因としては、まず個人ごと、職場ごとにヒヤリ・ハットや安全管理に対する意識の違いがあり、ヒヤリ・ハットの事象がその場限りのイレギュラーで完結してしまうことが考えられる。環境的特徴としてビルメンテナンス業はパートタイマーや臨時職員が多く安全管理が定着しづらいこと、少人数分散型の作業が主体のためワンオペで作業にあたることも多く、自身で注意していても死角は必ず発生するため周囲の注意喚起が難しいことがある。またビルメンテナンス業の労働災害の特徴の一つに、職員に生産年齢を過ぎた高齢者の割合が多く、高所作業や長時間労働にも従事することから、事故のリスクが上昇しているとの統計もあり、複合的要因が絡まって事故が起きていることが現状である。

事故のリスクを減らすには、環境的な問題の改善は契約内容や人数の問題があり、年数が必要となることから、まずできることから始めることが大切だと考える。ヒヤリ・ハット事象が発生したら、その都度当事者や職場の管理者が中心となり、どのような事故リスクに繋がるのかを検討、一つの例としてヒヤリ・ハットから繋がる事故リスクをフローチャート化して資料として蓄積していけば、事故がヒヤリ・ハットで止められることも増えると思われる。自分も、ヒヤリ・ハット事象をその場限りのイレギュラーで終わらせることなく事故リスクを考え、困難ではあるがヒヤリ・ハット自体が起こらないような職場になれば理想的と考える。

令和5年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

ヒヤリで済んだその作業 忘れぬうちに報連相

北海道クリーン・システム(株)

平 山 あゆみ

銀賞

言ったはず 聞いたはずより まず確認

北海道クリーン・システム(株)

大 塚 清 春

小さなヒヤリは隠しちゃおう。あなたのそれは、ごハットです。

ライラック興業(株)

小野田 康 宏

銅賞

あわてずに 一息ついて 冷静に 手順確認 事故防止

SSKファシリティーズ(株)

宮 下 容 一

急いだところで その差はわずか 心落ち着け安全作業

日本クリーン北海道(株)

酒 井 和 子

プロ意識 全ては基本の積み重ね 初心忘れず安全作業

日本クリーン北海道(株)

関 原 真菜美

危険箇所 見抜く力も プロの技

日本クリーン北海道(株)

辻 田 裕 一

自信と過信は紙一重 慣れすぎ作業に危険の影

北海道クリーン・システム(株)

井 村 晋 也

焦らず 無理せず 着実に 基本を守り 安全作業

北海道クリーン・システム(株)

小 林 勝 則

基本作業とプロ意識 みんなで築くゼロ災職場

北海道クリーン・システム(株)

清 水 寿 子

佳作

知らない、聞いてない、関係ない、職場の溝から起こる事故

(株)キタデン

五十嵐 仁 人

見慣れた職場 手馴れた作業 「なれ」から無くそうヒューマンエラー

SSKファシリティーズ(株)

川 村 篤

慣れた作業に潜む危険 初心に戻って ゼロ災害

SSKファシリティーズ(株)

倉 岡 和 夫

過信せず 「つもり」に潜む ケガのもと

SSKファシリティーズ(株)

近 藤 宏 和

危険の芽 みんなで摘めば 無災害	SSKファシリティーズ(株)	藤 城 和 也
あわてるな、焦る気持ちが事故を呼ぶ	中央ビルメンテナンス(株)	戸 田 仁 志
お互いに 些細な事も教え合い 深まる絆と安心安全	中央ビルメンテナンス(株)	藤 田 俊 望
再確認 重ねて悔いなし 「異常なし」	(株)東洋実業	石 川 勇
作業手順と 決まったルール きちんと守って ゼロ災害	(株)東洋実業	近 藤 雅 彦
信頼は 確かな清掃（しごと）の 積み重ね	(株)東洋実業	中垣内 久仁子
危険の芽 早めに摘んで 安全作業	日本クリーン北海道(株)	藤 巻 和 史
思いこみ 急ぐ気持ちに 潜む危険	(株)ベルックス	梅 崎 大 輔
あいさつで 心の掃除も はじめましょう	(株)ベルックス	前 田 貴 道
一人ひとりの安全意識 みんなが変われば職場が変わる	北菱産業埠頭(株)	原 田 仁 美
急ぐ気持ちが事故の元、気持ちを入れ替え安全作業	北海道クリーン・システム(株)	木 村 亮 太
慣れ作業 初心忘れず 安全確認	北海道クリーン・システム(株)	斉 藤 公 信
あなたのヒヤリ、伝えて続けるゼロ災害	北海道クリーン・システム(株)	鈴 木 洋 子
もしかして？ 小さな気づきで 事故防止	北海道クリーン・システム(株)	竹 田 奈々子
「何か変」 感じたその場で すぐ確認 誰でもできる 第一歩	北海道クリーン・システム(株)	永 野 徹
今一度 気持ち引き締め 再確認 ゼロ災害は積み重ね	北海道互光(株)	石 井 瑞 乃
あせらず、あわてず気をぬかず指差呼称で再確認	(株)クリーン開発	森 谷 眞智子
笑顔で挨拶 安全作業への第一歩	(株)クリーン開発	川久保 亘
引き締めよう 慣れと油断と 慢心と	(株)トーショウビルサービス	田 中 淳
「これくらい」 少しの油断が 命取り	(株)トーショウビルサービス	森 健 次
安全は 小さな注意の 積み重ね	(株)トーショウビルサービス	山 内 朱 里